

「介護施設老人ホーム廃棄物オムツ処理機」



生ゴミから
使用済み
オムツまで!

※これは「焼却炉」ではありません。
熱分解による廃棄物を原材料とした、炭及びセラミック粉の生成を目的とする為の装置であるため、諸官庁への申請は必要ありません。
含有率90%以上の物も単体で処理が出来ます!!

処理できる物	処理できない物
	
食品、生ゴミ プラスチック製品 ゴム製品 革製品 紙、布、木材 医療廃棄物	金属製品 ガラス製品 陶器 石、貝類

無害に！クリーンに処分！

焼却炉ではなく、炭化炉です！

これまで処理しきれなかった使用済み紙オムツ

生ごみなど水分含有量90%までの炭化。

さらにセラミック灰までを可能にした、他社には
真似の出来ない、

設置許可申請が不要の廃棄物処理機。

※ 100床までのオムツ処理は、1台で処理可能



ECO1

今まで廃棄物の処理に使用してきた燃料である石油、石炭、天然ガス等は一切、使用しません。電力のみを使用して稼働します。

消費電力も省エネ設計のため今までの自動廃棄物処理機よりも電気代を大幅に削減できます

ECO2

廃棄物はそのまま入れるだけでOK。

24時間後には投入された廃棄物を無害なセラミックへ処理します。
生成されたセラミックは殺菌効果や鮮度保持剤として再利用可能。

ECO3

特殊構造設計のカートリッジヒーターによる、抜群の熱伝導により、廃棄物を処理。

今までこのサイズで実現しなかった水分の多い廃棄物も吸引乾燥で、素早く処理します。

■ 老人ホーム、紙オムツ処分の現状・導入事例

◆ 全国の老人ホーム

特別養護等の老人ホームでは入所者の高齢化、重度化が進み、医療的ケア、施設内での排泄介助を必要とする入所者は確実に増えています。

平成24年度	
有料老人ホーム	… 7,500 件
養護老人ホーム	… 954 件
特別養護老人ホーム	… 6,750 件
軽費老人ホーム	… 2,190 件
合計	17,394 件



平成26年度現在 全国約20,000 件

※特養入居待ち 45万人

介護老人保健施設など事業所による紙オムツ処分について紙オムツには、し尿が付着しているから「一般廃棄物」である。という考えと、尿を吸収したポリマーは「廃プラ」にあたり、総重量の多くを占めるので、「産業廃棄物」である。（この場合であっても、糞を除去すれば「産業廃棄物」糞を除去しなければ「一般廃棄物」であるという考え方もあります。ただ、紙おむつ業界は、糞は紙オムツから除去し、便所に流してから廃棄するよう広報しているようですが・・・）という二つの考えがあるものと思われます。あとは、施設に入所してる方が、紙オムツ販売事業者と個別に契約している場合などは、個人が排出した「一般廃棄物」になり、逆に、施設の入所費用に、紙オムツ代が含まれている場合などは「産業廃棄物」となるという考えもあります。

◆ 九州某特別養護老人ホーム

焼却炉から変更したケース

- 紙オムツ処分費 ⇒ 30万円から 5万円に！
- ゴミ保管場所臭い問題 ⇒ 臭い無し 解決
- 焼却時
近隣からの煙・臭い問題 ⇒ 煙・臭い無し 解決
- ドラム缶1杯分の灰/1日 ⇒ ドラム缶1杯分の灰/1ヶ月



■導入後の費用削減例

●廃棄物コスト削減

・某介護施設例

ゴミ処分費 月平均 ¥300,000

本体 ¥5,900,000 ÷ 84回 (7年) = ¥79,500
(リース料率 1.35%の場合)
保守料 = ¥30,000
電気代 24時間 30日間稼働 = ¥20,000

トータル ¥129,500

導入した施設情報

- ・紙オムツ替え必要人数・・・ 約70名
- ・紙オムツ替え回数・・・ 平均3回/日
- ・紙オムツ替え枚数・・・ 約210枚/日
- ・45L ゴミ袋数・・・ 5~8袋/日

※その他 生ゴミ、プラスチック類
※紙オムツにはパットも含まれます。

従来
¥300,000/月

導入後
¥129,500/月

月々 ¥170,500 削減
年間 ¥2,046,000 削減
7年 ¥14,322,000 削減



※産廃費用単価は市区町村・産廃業者により大きく異なります。

■ 処理できる廃棄物とできない廃棄物

処理できる廃棄物



処理できない廃棄物



炭化・灰化



セラミック化



セメント
断熱材の
原材料に！

- 注) ・金属製の注射針やガラス製容器は処置できません。
・セラミック化には投入物によって時間は異なります。
・処理できない貝殻も時間をかければ灰化します。



